

井市の展望が開けるように、ひとつご指導をいただきたいもんだなということを最後にお願い申し上げまして、質問を終わりたいと思います。

我妻 昇委員の総括質疑

○大道寺 信委員長 次に、順位2番、議席番号3番、我妻 昇委員。

なお、11番、大沼 久委員より早退する旨の申し出があり、許可いたしましたのでご報告いたします。

○3番 我妻 昇委員 よろしく願いいたします。

それでは、前の質問者が時間をオーバーしてしまいましたので、私の方は少し簡潔に協力したいと思います。

1つ目ですが、清水町浄配水場更新事業の土木・建築・機械設備などの工事は長井市内の業者で施工できるのに、なぜ指名すらしなかったのかというちょっと物々しいタイトルになってしまいましたけれども、一連のこの事業について、指名するまでの経緯などを私個人的に不信感を持っておりますので、きょうはその不信感をぬぐい去るために質問をしたいと思っております。順次質問にお答えいただきますようお願いいたします。

まず、この更新事業は大きく2つに分けられる事業になっているようでございます。一つは、これから質問する土木・建築・機械設備の工事というのが一つ、2つ目は電気設備工事となっているということです。後者はより専門性が高いということでありますので、今回のこの質問は、この2つ目の方は省きます。

最初に、この工事の概要を水道事業所長にお伺いいたします。できるだけ詳細にっていうんでしょうか、簡潔かつ詳細にお答えしていただ

きたいと思います。というのは、その中で特殊な工事があるということです、どういったところが特殊な工事なのかということがわかるように、その部分も含めてお答え願いたいと思います。水道事業所長、お願いします。

○大道寺 信委員長 渡部政明水道事業所長。

○渡部政明水道事業所長 それでは、我妻委員のご質問にお答えしたいと思います。

最初に、清水町浄配水場更新事業の土木・建築・機械設備工事の具体的な工事概要であります、1つ目はステンレス配水池築造工事でありまして、容量1,000立方メートルの配水池を2つ、2池建設するものであります。大きさにつきましては、奥行きが23.5メートル、幅16メートル、高さが3.38メートル。その中で水が入ります有効水深は2.85メートルでございます。さらに耐震性を強化するために、くい基礎として特殊コンクリートぐい、直径500ミリ、50センチ、長さ18メートルのものを24カ所に地中に打ち込みまして耐震性の強化を図る施工がございます。

2つ目としまして、管理棟の建築につきましてはポンプ室、電気室、自家発電機室及び事務室がおさまるものでありまして、面積は365.05平米、約110坪ほどになるかと思います。それを鉄筋コンクリートづくりで建てるものでございます。大きさにつきましては、奥行き27.5メートル、幅12.1メートル、高さ5.448メートル、これは一番高いところの高さでございます。この管理棟につきましてもステンレス配水池と同様に耐震性を強化するため、くい基礎として特殊コンクリートぐい、直径400ミリ、長さ15メートルのものを35本地中に打ち込みまして施工いたします。

3つ目としまして、浄水場内の配管につきまして、口径150ミリから400ミリまでの送水管、導水管、流出管、配水管を415.8メートル布設するものです。

あと4つ目としまして、場内外構工事がございまして、場内の舗装工、周りのフェンス工、門扉設置工及び消雪設備工などでございます。

5つ目ですが、既設構造物取り壊し工としまして、現在も使っております配水池2池、機械電気室1棟、取水井2カ所などを工程の段階ごとに取り壊し、処分していく工事がございます。

6番目ですが、機械設備関係につきましては、口径150ミリの排水ポンプ4台の設置と、その周りの配管及び滅菌装置の次亜塩素酸ナトリウム注入設備が2台であります。

どういうところが特殊なのかについてであります。1点目は、特殊溶接、組み立てを必要としますステンレス配水池の築造だと思います。2点目は、耐震性を強化する特殊コンクリートぐいによる基礎工事になるかと思います。さらに3点目といたしまして、清水町浄配水場更新事業につきましては既設の施設を稼働させながらの工事でありまして、さまざまな工種が混在しての現場となります。そのために総括的な管理など難易度の高い工事であるということになります。以上です。

○大道寺 信委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 ありがとうございます。特殊な部分はステンレス配水池築造の部分で、その特殊溶接なんかを必要とするんだということ、また特殊コンクリート工というんですか、埋め込む、掘るんでしょうかね、そういったところということというのはわかりました。あとそれは工事の中の一部であると私なりに思っております。

それでは次に、この事業は今年度、年度当初は地元発注の考え方で進めていたというふうに聞いておりますし、そのような報告というんですかね、そういうふうに聞いていたわけですが、具体的にどんな検討をして地元発注の考え方を進めていったのかと。いろいろクリアすべきところがあったらと思いますけれど

も、そういった経緯について、どのようなことだったのかお聞かせ願いたいと思います。水道事業所長、お願いします。

○大道寺 信委員長 渡部政明水道事業所長。

○渡部政明水道事業所長 それではお答えいたします。

地元発注の考え方の経緯、具体的にどういうことをやってきたかということでございますが、清水町浄配水場更新事業は3カ年にわたります総額約10億円の大事業でもありまして、地元経済を少しでも潤す意味でも、土木・建築及び機械設備工事につきましては地元発注ということを考えておりました。このことにつきましては、年度当初の市長との打ち合わせの中でも水道事業所の担当者とともに説明しまして確認しているところでありました。

また、この件につきましては、設計におきまして平成18年度、実施設計において3分割の考え方で進んできている経緯がありましたものですから、当然、年度当初、清水町浄配水場更新事業についても3分割で発注予定でございました。

なお、3分割の内訳は、1件目は土木・建築工事、2件目は機械設備工事、3件目は電気設備工事でありまして、水道事業所的に今年度の予定といたしまして、7月に施行伺いをいたしまして、8月に契約、9月着工という計画であったところでございます。以上です。

○大道寺 信委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 はい、わかりました。最初は3分割に考えていて、十分地元で施工できるだろうというふうな確認をしながら進めておったと。7月にある程度決めて8月に契約ということで進めておったというところでございます。

それでは、そうやって進めていたにもかかわらず、なぜ途中から考えが変わってしまったのかと。せつかくのこの10億円の大事業というこ

とで、少しでも地域経済、長井の経済に貢献できるというふうな長井市においては数少ない事業であったわけですので、そうしたいという願い、またそれを求めている市民というんでしょうか、あったわけですが、途中から考えが変わって路線が変わったと。さらに地元業者を指名すらしめない結果となったと。なぜそうなったのかということ、市長、ご答弁をお願いしたいと思います。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

まず、当初の経過につきましては先ほど水道事業所長が申したとおりなんですけども、まず最初に確認いただきたいのは、最初から電気設備については約4億円の工事、これについては地元ではできないという判断のようでした。それで私が最初その打ち合わせしたのは土木・建築、これが工事が約5億円ちょっとだったと思います。あと設備工事が約1億円。それで機械設備に関しては地元でも十分できるだろうというふうにその時点では私も考えておりました。しかしながら、土木・建築につきましては、残念ながら長井の業者さんの中で、5億円を超える金額でございますので、土木も建築もAというクラスですと3社しかありません。3社では入札は難しいんじゃないかというところで、その方法について模索しておったところです。

そんな時点の中で、実はステンレス槽については地震に弱いといういろいろデータがございました。さらにタイミングを同じくして春に能登半島の地震がありまして、そこでステンレス槽が2基破壊されてると、壊れてると。やはり私は、もちろん地元が発注するのが一番いいんですけども、まずどこを一番最優先しなきゃいけないかというふうに考えた場合に、ライフラインの最たるものが水道だというふうに思っておりますので、もし災害等のときにステンレス槽が破壊されますと供給できなくなります。で

すからそこは一番確実にしっかりとした技術を持って施工できる業者はどこなんだというところをもう一度、地元も含めて検討させたと。

同時に、設計についても果たして大丈夫なのかということで、これは大道寺議員の一般質問でもお答えしたんですが、県の危機管理室の方に相談いたしまして設計を検討いただいたと、精査していただいたということ等々で時間がかかってしまったと。県内の同じような事例を調べましたところ、地元を使ってるケースというのは皆無じゃないんですけども、JVの方式をやっているところがありました。それ以外はもう全部大手のゼネコンでやってたということから、その辺の方策についていろいろ検討させたとことでございましたが、結果として、商工会議所の建設部会の要望もいただきましたけども、その時点でも何とか、これは単独の起債事業でございます。ただ、県、国の許可をもらってる起債なんですけども、何とかこれを今年度中に実績を3億円以上上げなきゃいけないという説明だったんですけども、それを何とか次年度に繰り越しても、何とか今年度中に、例えば地元のJVあるいは大手とのJV、そういった方向でできないかということでぎりぎりまで検討したんですが、いろいろな制約上、起債等についても非常に繰り延べすることによって今後影響が出るということから、苦渋の判断として機械設備もやはり一本の方が非常に効率がいいと、単価も安くなるということで、2本で大手ゼネコンで入札をしていただいたところです。

不信感があるということでございましたけども、指名につきましては私は一切かかわっておりませんし、一般質問で大道寺議員からは防衛省の疑惑もあるというふうな話がありましたけども、結果として、例えば土木・建築工事につきましては、6億円ちょっとの設計価格に対して4億4,800万円ということで、設計価格に対してしまして約1億2,000万円。あと電気設備も

6,000万円ということで、トータルで2億円近い安価な入札価格でできたと。その分、市民に対しては、これは十分期待にこたえることができたのかなと思いますし、入札結果を見ていただくと一目でございすけども、談合等々については全くこれ疑う余地のない、あるいは私が指名にかかわったということは、これは指名審査会に私は全く入っておりませんし、私から業者の指名もここを使えとかと言ったことは一切ございませんので、ですからどういった不信感なのか私はちょっと理解に苦しんだところでございます。

○大道寺 信委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 そんなに余計なことまで答弁しなくても結構です。入札に対する不信感なんて私もありません、入札というのは公正に公になってるわけですから。指名に至るまでの経緯について私なりに不信感を持っているということを申し上げたのでございます。

先ほど1億2,000万円、まあ1億5,000万円ぐらいですね、安くなったのはね。非常に安くなって市としてはよかったのだろーと思いますけれども、またちょっと質問に戻りますが、市長がさきの一般質問で、当初もっと早く、例えば8月なり、7月が可能だったのかそれはわかりませんが、「当初早く発注する予定だったのが大幅におくれた」という指摘の中で、大幅におくれた理由について答弁なさっておりますが、「地元業者で施工できないかと何度かやりとりをしたんだ」ということをおっしゃっております。「事務局が出したことについて、もっとこうできないのかと、ああできないのかというふうにしろということで何度も事務局に返しました」というようなことだったんですが、その何度もやりとりをしたというのは具体的に4月からどのくらいの期間そうやって検討されたのか。そのやりとりというのは具体的に何だったのかですね。先ほどのステンレスのことも、

それも含んでるんでしょうけれども、いつまでそうやって検討されたのか、その時間的なことをちょっとお聞きしたいなと。市長、お願いいたします。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

施行伺いが来たのは、その部分、詳しく打ち合わせしてなかったもんですから、ちょっと私の記憶で恐縮なんですけども、7月に入札をしたいということだったもんですから、6月の時点だったと思います、初めだったと思います。その時点で地元業者による入札をしたいということでしたが、その時点で私は、土木・建築が先ほど申し上げましたように6億円の設計に対して土木のA、Bの11社で入札をしたいということだったものですから、土木の資格では建築持っていないじゃないかと、これじゃできないだろうということで、ほかの自治体の状況はどうなんだということをまず調べさせました。そしてその後、ステンレス槽だということの内容を確認しまして、能登半島で倒壊した槽があるというふうな情報を得ましたので、それもあわせて検討したと。それが8月ぐらいまでで大体まとまって出てまいりました。

いよいよ指名審査会をするかという段階だったんですが、そこで、地元の建設業業界の方で何とか地元でこれさせてもらえないかという要望が強いと、そして具体的に9月に入りましてから商工会議所の建設部会の方から要望書が出るということだったもんですから、審査会を一時ストップさせて地元で受けられる方法を模索させたということでございますが、残念ながら、何回もやりとりしたんですけども先ほど申し上げましたように、どうしても起債のところ今年度中に3億円近い実績を出さないと次年度以降の起債がかなわなくなる可能性が高いということで、最終的には10月に判断してゼネコンでいくしかない、大手でいくしかないというこ

+

とで決定して、あと指名審査会、入札という運びになっております。

○大道寺 信委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 そのどの時点で地元じゃなくてゼネコンも含めてというふうに変ったのかと私は聞きたいんですけども、7月16日の地震が何か分岐点になってるような私はイメージを持ってるんですよ。何か地震があったために県にお伺いをしたり、県や総合支庁に伺ってさまざまな指導、アドバイスを受けたということです。その7月の16日の地震がなければいろんな意味でクリアできていたんじゃないかなと。

（「いいえ」の声あり）

○3番 我妻 昇委員 そんなことはない。あとAランク、Bランクという金額の話もあるようですが、ランクを必ずしも、そのランクというのはどこのランクなのかですが、そのランクというのは必ずこの事業については守らなくてはいけないということなんですか。その分離発注してもしなくても、する前は5億円6億円かかるんだと。そうするとAランクのところは3社しかないんだと。でもAランク、Bランク含めて11社でやりたいということでしたけども、それってというのは、その枠は超えられないということなんですか。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 まず、7月の16日の新潟中越沖地震というのは確かに一つの転機になりました。それはステンレス槽の設計に対しての、ちょっともう一度点検しろという指示を出したということと、それ以前に、今、我妻委員ご指摘のとおり土木・建築のA以上じゃないとこれは仕事できないだろうという、これ決まりがあるものですから、それに基づいてもう一度再検討をさせたところでございます。その基準につきましては、水道事業所長より基準の方については説明をさせます。

○大道寺 信委員長 渡部政明水道事業所長。

○渡部政明水道事業所長 発注の基準になるかと思いますが、お答えしていきたいと思えます。

「長井市建設工事請負業者選定要綱」に基づきまして、従来ならば、この要綱の第6条、第8条、第9条に基づきまして指名業者を選定するわけでございますけれども、このたびの清水町浄配水場更新事業につきましましては特別な工事でございます、これ以外というふうな、例外というか、そういう感じでとらえまして、県からの聞き取りなども含めまして独自の審査表などを作成しまして業者選定に当たったところでございます。以上です。

○大道寺 信委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 例外とはどういう意味でしょうか、今のちょっとわかりづらかった。別に、じゃあ、この事業は特別な事業だから独自の選定方法でということなんですか、例外というのは。ということは、私が質問したAランク、Bランクという枠は関係ないということになりますか。

○大道寺 信委員長 渡部政明水道事業所長。

○渡部政明水道事業所長 大変失礼しました。例外という言葉は不適切でありました。申しわけございませんでした。

先ほど申し上げましたが、長井市建設工事の請負業者選定要綱第6条、発注基準であります。例えば土木一式工事ですとか建築一式工事、このたびの水道施設工事であるわけですが、土木工事につきましてはA工事につきまして2,000万円以上なんです、建設業者の指名基準といたしまして、長井市でランクづけしておりますA、Bの業者の方が該当するわけでございます。あと建築一式工事としましては、A工事が2,000万円以上でございますので、Aランクの建築にランクされてる業者が該当するわけでございます。あと水道施設工事につきまして

はA工事が2,000万円以上でございまして、ランクづけのA、B工事が該当する業者となるわけです。従来であればこういうランクづけになります。

ただ、このたびの工事につきましては、先ほど来からの特殊性を申し上げてるわけですが、特別な技術を要するために、指名等級によらずに独自に指名競争入札の審査表を作成しまして、この要綱第8条並びに第9条に基づいて指名したということであります。

この独自の審査表というのは、山形県建設企画課並びに総合支庁など、聞き取りによりまして作成したものでございます。以上でございます。

○大道寺 信委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 ちょっとまだ私も頭がこんがらがりますが、ということは、ランクによらず独自の審査基準を設けられると、この工事に関してはというふうに受け取ってよろしいですか、市長。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 今回の工事につきましては、当初、市の審査基準で出してきたわけです。私が先ほどから申し上げてるのは、市の審査基準でも土木・建築で5億4,000万円ぐらいの設計でございまして、そうしますと建築と土木合わせてA以上の企業というのは3社しかない。ですから3社では入札はできないんじゃないかというふうに、水道事業所の方に私は打ち合わせのとき言ったんですね。機械設備については約1億円なんでこれはできるだろうと。しかも能力ある企業は、会社は市内に複数あると、6社あるだろうと。しかし土木・建築については3社しかない。だからこれでは難しいんじゃないか、入札は。結局市内ではできなくて枠を広げるしかないだろうと、だからその辺の状況をちょっと調べなさいと、県内の類似施設の工事の指名状況を調べなさいというふうに指示した

のが6月ごろだと思います。

結果として、いろんなところを調べてみたら、これは本当に特殊工事だと。市内の業者では実績ある企業はないということから、ほかのところは大手のゼネコンあるいは準ゼネコンを指名して入札をやっているということが明らかになったということでございます。

それで水道事業所長が申し上げたのは、特殊な工事として、今の長井市の指名の枠じゃなくて違う基準で選定しなきゃならないということで、県の方から指導を受けていろいろ精査して今回の入札の指名に値する業者の選定にたどり着いたということだと思っております。

○大道寺 信委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 ということは、当初はまず分割で5億円、1億円分割したときに、5億円の方は3社しか当てはまらない、1億円の方は数社当てはまるからいいだろうということで、いろいろ問題あるよということだったわけですね。地震等もあってさまざまなことを県にお伺いを立てアドバイスをいただいたら、特殊な部分があるから、この1つと2つを一緒にして全体を2つに分けて規模額も6億円を超える大きな規模になるわけですが、そうした場合は市のランクによらず独自の審査基準でという、そういう経緯ですね。

そこで、その独自の審査基準というのは、県から指導もあったんですが、実績を重視ということですけど、これ重視しなくてもできたんじゃないですか、独自ということは。要するに地元企業をとという切なる思いがあれば、県の指導というのは命令じゃないでしょ、命令じゃないわけですから、あくまでも地元優先なんだと。地元の経済を最優先するんだという信念さえあれば、独自の審査基準というのは、県から指導を受けたということであるにしても命令されたわけじゃありませんので、それを考慮しながら安全に施工できる業者を市内の業者から選定、

+

指名することができたのではないのでしょうか。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

冒頭に申し上げましたように、何を最優先するかということで考えた場合に、まずライフラインだと。ですから何かあった場合、水道がストップしてしまうということは絶対避けなきゃいけない。そんなことから技術的に能力のあるやっぱり施工業者を選定しなきゃならないということ、まずこれが1点ですね。

あと2点目は、市内にも、実績がなくとも、技術といいますか、施工能力があるだろうと想定される業者はもちろんいます。しかし数が足りない。そうしますと、いずれにしろ市内の企業、建設会社だけでは入札できませんのでその枠を広げなきゃならないということで、水道事業所の方にどんな方法があるかということで指示をしたところでございます。ですから委員おっしゃるのは、それを別としても能力がある会社があればそこに指名すればいいじゃないかというふうに言われますけども、入札ができないんです、市内の業者だけでは。私の判断としてはですよ。ですから、例えばそれが6社以上あればですけども、それは公正に考えても、まずむしろ市内の業者だけでさせるということは、これは市民のためではないと私は判断したということでございます。

○大道寺 信委員長 ここで昼食のため暫時休憩いたします。

再開は午後1時といたします。

午前11時58分 休憩

午後 1時00分 再開

○大道寺 信委員長 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

それでは、我妻 昇委員の質疑を続行いたします。

3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 まず、市長は、水道施設はライフラインなんだと、市民の生活を守る貴重なライフラインですのでこれを安全に確実に施工させると、それは当然の責務であります。こういう大工事を安全に施工し切る、最後まで確実に施工し切るにはそれなりの能力があるんだと、それを優先させたというようなことであります。

その大工事で能力というときに、特殊な工事があるよということで先ほどから話出ていますとおりです。一つは特殊組み立てを要するステンレス配水池の築造ということですが、現在工事がある程度着工し、進んで、この特殊組み立てを要するステンレス配水池の築造は扶桑建設工業株式会社が直接行っているものですか、それとも下請が行っているものですか、水道事業所長。

○大道寺 信委員長 渡部政明水道事業所長。

○渡部政明水道事業所長 ステンレス配水池の建設につきまして、扶桑建設工業さんが直接するかどうかという点でありますけれども、施工する時期は、ある程度暖かい時期でないとステンレス配水池の特殊溶接は不向きでございますので、3月に入りましてある程度の気温が上がった時点で施工するわけですが、直接するか下請に出すかということは、まだ計画書出てきておりませんので現時点ではわからないところでございます。

○大道寺 信委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 水道事業所長には上がってきておりませんが、私がいろいろな水道あるいは建設関係の関係者にお聞きしたところ、もう既に決まっていると、その製品はどこどこで納めて、その営業マンも何度も長井の方に、長井市外なのかはちょっとわからないんですが、

営業マンもたびたび来ていらっしゃるようだというような情報をいただいております。ということは、それが本当だとすれば、またこれどっちにしろ製品ですからね、ステンレスをその扶桑建設が一つ一つつくっていくとは到底考えられません。どっかに製品があって、それを現地に持ってきてそこで現地に納めるということなんでしょうけれども、どっちにしろ製品でございますし、どちらにしろ扶桑建設工業が製造、組み立て、設置まで直接するとは到底私には思えない。ということは、扶桑建設工業でなくてもできるであろうということになります。

もう一つ、特殊コンクリート工、これは耐震のための基礎工ですよ、これずうっと掘ってコンクリートを埋めるんでしょうか。そこの工事は同じく、どうですか、その扶桑建設工業さんが直接おやりになるのか、把握してらっしゃいますか。

○大道寺 信委員長 渡部政明水道事業所長。

○渡部政明水道事業所長 耐震性を強化するための特殊コンクリートぐいの基礎工事につきましても、現段階では扶桑建設工業さんが直接施工するか下請に出すかという計画書もまだ出てきておりません。

○大道寺 信委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 これも私は下請に出すというふうな話を聞いております。それも計画書出てこないからわからないでいいんでしょうか。その計画書というのは、施工台帳っていうんでしょうかね、私ちょっとよくわからないですけど、この工事はどこがやって、この工事はどこがやってというふうな計画書というんでしょうか、それっていうのはいつの時点で出すことなんでしょうか。それをだれがチェックしてるんですか。この時点でわからなくてもいいことなんでしょうか。

○大道寺 信委員長 渡部政明水道事業所長。

○渡部政明水道事業所長 この事業につきまして

は10月17日、入札執行されまして、その後打ち合わせを重ねて施工計画表は提出されております。ただ、下請計画書の方はまだ出てきていない状況でございますので、ステンレス配水池にいたしましても、あと特殊コンクリートぐいの基礎工事にしましてもまだわからないところでございます。

○大道寺 信委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 ですからいつの時点でわかるんでしょうか。

○大道寺 信委員長 渡部政明水道事業所長。

○渡部政明水道事業所長 現時点では現場事務所なりの仮設工事が進んでおりまして、その後、きちんとした日にちはわからないんですけども年明けてから本格的に入るというふうなことを聞いておりますので、12月中には提出されてこちらでもわかるかと思えます。

○大道寺 信委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 はい、わかりました。

私の情報、私の調べたところによると、この2つの特殊工事は下請会社に発注する予定であって直接工事するものではないと、管理はもちろんするわけですけども。ということは、ある程度の管理の能力を持った会社であれば、建設会社等であれば十分工事できるということだと私なりに結論づけておりますので、やはり市内の業者でできないということにはならないと思います。

もう一つの質問ですが、独自の審査基準を県のいろんなアドバイスによって構築したわけですが、例えば山形県建設工事入札参加名簿の土木格付B以上であることですか、建築のC以上であることとか、水道施設の1,000点以上というようなこと、あとは営業停止だとか指名停止だとか、そういうことを受けてないことというようなこの審査基準を独自につくったわけですが、最終的にこれでよしと、この審査基準でいいというふうに判断されたのはだれですか、

+

水道事業所長ですか、市長ですか。

○大道寺 信委員長 渡部政明水道事業所長。

○渡部政明水道事業所長 独自の入札審査表の作成でございますが、長井市の指名競争入札参加者名簿には当然市内の業者のみしかランクづけなされてないものですから、長井市の指名入札参加名簿に登載してる市外業者につきましては、山形県工事入札参加者名簿のランクづけを参考にさせていただきながら作成したところでございます。それで担当者の方に作成していただきまして、私がこういう案でいこうということになりました。以上です。

○大道寺 信委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 それでよしというのはどの時点で決まるんですか。水道事業所長はそういうふうにしたい旨をつくったわけですね、それでよしと。それはどこで決まるんですか、それはだれが決めるんですか。

○大道寺 信委員長 渡部政明水道事業所長。

○渡部政明水道事業所長 施行伺いの決裁にかかわることですので、施行伺い、この事業につきましては決裁権は市長でございますので、施行伺いの中に工事概要とかそういう関係した資料をお持ちしまして決裁をいただいてるところでございます。

○大道寺 信委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 ということは、県のアドバイスをいただいて、このような、指名審査基準というんでしょうか、でいこうというふうに水道事業所長が案をつくり、それを決裁、施行伺いというものに決裁をおろした、判こをついたというんでしょうか、そういうふうに決定したのは市長であるということです。

結局この審査基準によって市内の業者がもう全く入ることができない審査基準になってるわけですけど、ここの基準を、県のアドバイスをいただいたのはわかります。でも独自に構築できるわけですから、もうちょっとやわらかく、

この指名になった6社プラス、先ほど来言ってる3社、市内業者3社が入れるくらいの、そのくらいの考慮があつてよかったんじゃないかと、できたんじゃないですかと。なぜそこでそこまで踏み切らないのかと、そういう決断をしなかったのかと、市長、いかがでしょうか。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

まず、施行伺いで決裁は私ももちろんしたわけですが、そのときに長井の業者が入るかどうかということで決裁したんじゃなくて、この基準が一番公正だということで、結果として後で指名審査の状況を確認しましたら地元が入ってないということがわかりました。それでその後、ちょうど同じタイミングあたりで地元から、商工会議所の建設部会から要望があったものですから、とりあえず施行伺いを出したんですが、もう一度何とか入れる方法ないかということで検討を重ねて、それに相当数の時間をかけてきたということです。

それで、委員がご指摘の市内の業者も入れるような基準まで下げたらいいんじゃないかということになりますと、例えば市内3社以外に指名する業者さんの選定の基準が今度はっきり出てこなくなるわけですね。恐らく、これは一般競争入札じゃないんですが、指名競争入札ですけども、条件をつけないと、市内に例えば本社とか営業所あるというふうにつけないと市内は入らないですし、それを例えば外しますと、もう恐らく何百社ということになるんじゃないかなと思います。ですからこの基準は、私はこの規模の工事としては適正なんじゃないかなと。ただ、やり方としては、この基準じゃなくてやはりJVを組むとか、そういう方法しかないんじゃないかな。しかしながらJVについての要綱等がございませんので、担当の方に確認しましたところ3カ月ぐらいかかるということで、最終的に断念したということでございます。

○大道寺 信委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 ですから、この基準で選定されるのは6社になるわけですね。辞退をなさった方もいらっしゃるようですが、6社になるわけですね。だからこの基準プラス市内に本社がある何ランク以上のものを加えるとかですね、そういう配慮できなかったのかと。これは何も決まりじゃないでしょ、先ほど命令じゃないでしょというふうに確認しましたよね。アドバイスはいただきましたけれども、それに長井の独自の考え方もこれ入れてよかったんじゃないですか。3社が、3社なり何社かわからないですけども入られるような、大体この水道施設の総点が1,000点以上なんて、長井の業者あり得るわけじゃないですか。だって水道施設の大規模な工事なんて長井でやってないんですから。大体これに入らないなんてことは最初からわかったはずで、ふたをあけてみて入らなかったっていうのは、それはちょっと私は疑問に思います。市長、もう一度。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 そのこのところは我妻委員と私は認識違います。確かに地元の業者も入れたいです。しかしながら、本当に能力ある業者じゃなかったら大変なことになりますよ、これ。もし落札して事故が起きた場合、不良施工等が出た場合。ですからやはり、ライフラインだと先ほど申し上げてますようにね、地元はできるだけ使いたい、それはもちろんですよ。しかしながら、地元だけは特別だという扱いでほかのところを市外の業者は厳しくすると、二重の基準を設けるということは、これはあってはならないことだと思います。

○大道寺 信委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 じゃあそもそも年度当初、あるいは18年度に市内業者っていうふうに何でこだわったんでしょうか、その考えからするとおかしいですね。

まあいいです。私は、とにかく努力を怠ったんじゃないかと、私なりにこの件に関して今回不信感をぬぐうことができませんでした。当初の工事を3つに分けた時点でも、さまざまなもう少し努力ができたんであろうと。また、県に伺ってアドバイスを受けて審査基準を独自につくった時点でももっと努力できたんだろーと思います。そういった努力を怠ったことは非常に私にとっては不満、不信ということになります。

最後に一つ、この件でお伺いしますが、今後もうこういった、水道事業に限らずさまざまな大規模工事っていうのが、短いスパンでなくて長いスパンで考えれば大きな工事があるかと思います。その都度県にお伺いを立て、実績などを考慮し、それを最重要視していくおつもりなのか。また、ある程度の配慮を設けて、長井市内の経済の活性化、地域の活性化を最重要視されていくおつもりなのか。そのどちらのおつもりか伺います。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

当然、工事の種類にもよるかと思いますが、地元を優先して、議員も前々から指摘のとおりこういった経済情勢でございますので、市内の公共工事につきましては極力市内の業者でできるような、そんな方法を検討しなきゃならないと。しかしながら、場合によってはいろいろそれ以外にも検討しなきゃいけないケースも出るかもしれないというふうに思いますが、極力地元重視でいきたいという考えでございます。

○大道寺 信委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 もう時間もありませんので次の質問ですが、一般会計の補正予算で、5ページの2款1項1目の退職手当組合負担金2,332万1,000円、これ一般職の部分ですね。というのは、総務・文教委員会協議会では計算ミスだったというふうに私なりに受け取ったんで

すが、その認識でいいのかどうか。その内訳と
いうか、その中身についてももう少し詳しくお聞
かせください。総務課長ですね、お願いします。

○大道寺 信委員長 平 進介総務課長。

○平 進介総務課長 このたびの補正予算額
2,332万1,000円の内訳でございます。一つには、
山形県市町村職員退職手当組合に対する特別負
担金でありまして、平成18年度末退職者分で
2,005万円、それから今年度に入りまして4月
に1名退職しております。この特別負担金が
268万3,000円でございます。また、同じように
退職手当組合に対する普通負担金、これは例月
の給料表上の給料月額に対して負担率を掛けて
退職手当組合に支出しておりますが、これの普
通負担金の今年度分の精算額が58万8,000円と
なっております。以上が内訳でございます。

○大道寺 信委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 私は計算ミスという認識
でよろしいかというふうに聞いてるんですが、
お答え願います。

○大道寺 信委員長 平 進介総務課長。

○平 進介総務課長 この3点の中の平成18年度
末の退職者分2,005万円について、当初予算の
積算で過誤が発生したということでこのたびの
補正をお願いしているところでございます。

○大道寺 信委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 過誤って何でしょうか。

○大道寺 信委員長 平 進介総務課長。

○平 進介総務課長 積算上の集計の誤りでござ
います。

○大道寺 信委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 ミスですね、誤り、単純
なミス、うっかりミスですか、それとも、どん
なミスがあるかはちょっとわからないですけど、
積算、集計の誤りということですね。これは
2,000万円もの大金ですよ、集計の誤りでし
たと、そのみの報告でいいんですか、市長、
集計の誤りでしたと、誤りでしたでいいんです

か。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

私も今回の補正で、なぜこんなに多いのかと
いうことで詳しく確認しましたところ、昨年度
まではかなり独自削減分などもありまして退職
金の普通負担金というのは低くなってたと。前
年度は数百万円まで落ちてたということで、19
年度は当初1,666万8,000円、これぐらいだろう
という単なる思い込みで、いわゆる勧奨分の7
名の部分が抜けていたということのようでござ
います。私は初めて聞きましたし、これは最初
から確信犯ということではなく、本当にうっかり
ミスだろうというふうに見ております。そん
なことで大変申しわけなかったと思います。

○大道寺 信委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 思い込みであったり誤り
であったりということで、それはそれで人には
ミスがあるし、思い込みもあったり誤りもある
でしょうけれども、2,000万円もの大金ですよ
ね、しかもこの時期に。人件費がアップするよ
うなイメージをつくってしまう、非常につらい
なと私も思っております。

誤りであったと、ミスであったと、思い込み
であったというのはわかりますけども、だから
どうするんですかというふうに、それを示さな
くてはいけないんじゃないですか。誤りだった、
申しわけありませんでしたと、だからこういた
しますと、この2,000万円、こうやって努力い
たしますと。だって予算というのは大道寺議員
も一般質問で言ったとおり約束をしているわけ
ですから、約束とちょっと違ってしまったと、
誤りでして済むんですか。今までもそんなこ
といっぱいありましたよね。税金でもそうです
し、収入でいえば私はあやめ公園のことを挙げ
ましたけれども、あとは人件費削減ができなか
ったりですね、そういった、いわば約束をした
ことについて誤りでありましたと、それで終わ

りではちょっといけないのではないかと。何らかの方策、対策、穴埋め策というものを示すか、もしくは努力目標というものを示すか、そういうことをして初めて説明責任というふうになるのではないのでしょうか、市長。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 議員ご指摘の件については、今回のこれは義務的経費でございますので、残念ながらこれはひたすらおわびするしかない。たまたま今回は繰り越し財源があったので補正できたわけですが、なかった場合は大変なことになっただろうと思います。

一方で、新たな非義務的な補正を組む場合はそれなりの財源をしっかりと確保しなきゃいけないわけございまして、そういう意味では今回は義務的経費だということでそれに対する対応というのは考えてないわけですが、本当にあってはならないミスだなというふうに担当者に對しては厳しく言っているところでございます。

蒲生吉夫委員の総括質疑

○大道寺 信委員長 次に、順位3番、議席番号17番、蒲生吉夫委員。

○17番 蒲生吉夫委員 通告しております4点についてご質問を申し上げたいと思います。

最初に、指定管理者制度の導入を慎重にということで、文教の杜関係については、条例提案になっている中であって総務・文教常任委員会に質疑なされておりますので、その分は傍聴に行って全部聞いております。聞いておりますので、中身がわかった上で疑問に思っているところの幾つかを、まず文化生涯学習課長にお聞かせを願いたいと思いますが、財団法人を構成して文教の杜をその財団法人に委託しているわけですが、そういう意味からすれば、指定

管理者制度という制度そのものの最も重要なポイントは、公募をするというのが指定管理者制度の重要な何点かの中の一つだと思います。最重要課題だというふうに思います。財団法人であれば、私はやっぱり非公募をせざるを得ないんじゃないかと思うんですね。ですから最初からここに非公募で、そこと最初から契約するというので、それは財団法人であってもそうしてきたわけですね、これまでも。指定管理者にするということで大原則を外したんだと思います。非公募というのは大原則を外していると思います、私は。

その意味で、第1号の指定管理者はあんまり財団法人で管理してるあの部分は適当でないんじゃないかというふうに、総務・文教常任委員会終わってから私も私はやっぱりここが一番疑問に思ったところなんですね。なぜ1号にしたのかなというふうに思うところは先ほどの我妻委員と一緒に払拭できないですね。そこをわかるように説明、まずしてください。

○大道寺 信委員長 那須宗一文化生涯学習課長。

○那須宗一文化生涯学習課長 お答えを申し上げます。

なぜ非公募でかというふうなことがまず1点あると思いますが、まず、非公募で指定管理者制度を導入するというふうなことについては、委員もご存じのとおり、長井市の公の施設に係る指定管理者の指定の手續等に関する条例の第2条でのただし書きの規定の中で、非公募とすることはできるというふうなことがありますので、まずこの部分を適用していきたいというふうなことでまず考えたところです。

なぜかという部分で申し上げますと、文教の杜につきましては、当初、市直営で行いたいというふうな考えを持っておったところでございますが、市民の意見を反映した運用を求める声が非常に多くございまして、そういった中でどのような形でそのような形態をとればいいのか

+